

大学の世界展開力強化事業（平成23年度採択）中間評価結果

大 学 名	広島大学
タ イ プ	B - I I
構 想 名	国際大学間コンソーシアム INU を活用した、平和・環境分野における協働教育

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価)	当初目的を達成するには、助言等を考慮し、より一層の改善と努力が必要と判断される。
B	
(コメント)	<p>本プログラムは、欧州、米国、アジアにまたがる国際的な大学間コンソーシアムである INU (International Network of Universities) の枠組みを利用して、広島大学の基本理念と密接な関連性を有する「平和」分野、また、COE プログラム等の実績を有し地球全体の問題と関連する「環境」分野とこれらの融合分野で、地球市民としての自覚をもって、国や地域の持続的発展に資する人材を育成することを目的としている。</p> <p>本プログラムにおける取組の一つであるダブル・ディグリー・プログラムについて、授業料等の問題を抱えているため、協定締結が困難な相手大学との協議に固執しすぎているとの印象があり、学生交流等の実績はあるものの、これらの相手大学との間では協定締結が遅れており、中間評価までの取組状況が十分でないことにつながっていると考えられる。「平和」及び「環境」分野において、複眼的な視野と知識を持ち、地球社会の一員として国や地域の持続的発展に資する人材を育成していくことを目的としているのであれば、英語教育優先という考え方とは別の側面を加える意味で、相手大学の多様性を検討することが望まれる。</p> <p>日本人学生に対する具体的な英語力の育成・強化に関して、広島大学独自の語彙リストを作成するなどの取組が進められているが、語彙力以外の英語能力育成についても抜本的な対応が求められる。また、英語力育成に関する目標に対して、達成状況を具体的かつ明確に示すことが求められる。</p> <p>本プログラム開始以来、派遣学生数や留学説明会等への参加者数の増加など、学生の外向きの意識が更に強まったことは評価できるが、まだ「留学に興味がある」というレベルにとどまっており、3ヶ月以上の留学による単位や学位の取得、学生の英語力向上といった成果に結びつくところまでは到達していないため、今後、より一層の改善が求められる。</p>